

人権教育に関する特色ある実践事例

基準の観点 地域や関係諸機関との積極的な連携・協力が行われている実践事例

1. 基本情報

○都道府県名及び市町村名

静岡県沼津市

○学校名

沼津市立沢田小学校

○学校のURL

<http://www.numazu-szo.ed.jp/sawada-e/>

2. 学校紹介

○学級数

【通常の学級】1年3学級、2～6年各2学級【特別支援学級】0、【合計】13学級

○児童生徒数

【全校児童数】394人（平成25年11月26日現在）

（内訳 1年72人 2年67人 3年66人 4年55人 5年69人 6年65人）

○学校の教育目標、人権教育に関する目標など

- ・学校教育目標 かしこく やさしく すこやかな 沢田の子
- ・目指す学校像 笑顔いっぱいの 楽しい学校
- ・目指す子ども像 3つの笑顔
 - ・わかった・できたの笑顔
 - ・仲よく助け合う笑顔
 - ・元気いっぱいの笑顔
- ・人権教育の目標や指導の重点
 - あいさつやかかわり合いを通して、よりよい人間関係を築く活動を推進する。
 - 積極的に学校をひらき、家庭・地域社会から信頼される学校をつくる。
人権感覚を高め、明るく元気で支え合う教職員集団をめざす。
- ・学年・学級目標
 - (低) 友だちと仲良くし、よいところを見つける子
 - (中) 友だちのよさを認め合い、協力して活動する子
 - (高) 相手の立場に立って行動し、共に喜びや満足感を味わおうとする子

○人権教育にかかる取組の全体概要

○家庭・地域との連携、校種間連携

- (低) 幼稚園やシニアクラブとの交流、異学年交流（なかよしタイム）、人権教室
- (中) 地域の福祉施設との交流、異学年交流（なかよしタイム）
- (高) 地域の福祉施設との交流、異学年交流（なかよしタイム）、障害者週間の理解

3. 特色ある実践事例の内容

人権教室「人権の種をまこう」

・取組のねらい、目的

児童一人一人が人権とは何かを知り、人権意識を高めるとともに、身の周りの人権問題の発見や解決のための方策を考える知識や手立てを児童期から身に付ける。

・取組を始めたきっかけ

沼津人権擁護委員協議会より「人権教室」の依頼があったため

・取組の内容

対象学年 2年生（1組・2組 学級ごと実施）

題 材 名 人権の種をまこう

実施日時 平成25年2月16日（土）第3・4校時（学校公開日）

内 容

沼津人権擁護委員協議会の皆様に御来校いただき、2年生を対象とした人権教室を開いた。



まず、「人権とは何か」、はるかちゃん、けんちゃん、おとうさんの話をもとに、はるかちゃんの気持ちを考えた。人権を守る気持ち、やさしい気持ちの大切さについて話し合った。当日は学校公開日で、保護者の方々、地域の方々も参観して下さった。



次に、副読本「種をまこう」の巻頭メッセージをみんなで読んだ。



担任が「一つの押し花」の話を読み、お話の出来事について話し合った。話し合いの中から、仲良く学校生活を送るためには、優しい気持ち・思いやりの気持ちを抱くことが人権を守るために大切だという意見がたくさん出された。



最後に「人権の種はどこに蒔くのでしょうか？」という問いに「心です。」という返事が子どもから返ってきた。人権について深く考えることができた1時間となった。

- 取組の主体や実施体制
2年生（1組・2組） 学級ごと実施
- 取組の頻度
年間1回
- 取組を実現するにあたって課題となったこと、及びそれに対して講じた工夫等
沼津人権擁護委員協議会の方々のおかげで、大変有意義な人権教室を開いていただくことができた。特に課題は無かったが、今後学校として、2年生を対象に計画的に人権教室の実施を位置づけていきたいと考えている。

4. 実践事例の実績、実施による効果

- ・取組の実績

平成 24 年度 1 回実施、平成 25 年度 1 回実施予定

- ・取組が効果を上げた実際の事例

2 年生での人権教室をはじめ、全学年において実践している異学年交流や地域の福祉施設との交流等、いろいろな人との関わりを繰り返し行うことにより、6 年間を通して、子どもたちの人権意識を高める効果が出ていると感じている。

- ・取組の実施から得られた知見・経験により改善を図った事項

人権教室については、依頼されて 1 回のみで終わらせず、2 年生が行うという学校としての位置づけをすることにより、年を重ねるごとに学校全体の児童の人権意識が高まっていくと考え、本年度も実施することにした。

地域の福祉施設等との交流会については、会を開くにあたり、どのようにしたら相手が喜んでくれるか話し合ったり、準備をしたりすること、交流会を終えて感じたことを文章に残すことにより、自分の心の成長を感じることができている。

これらのことから、交流をその活動のみで終わらせず、事前学習の時間やふり返りの時間を大切にするように改善している。

5. 実践事例についての評価

- ・取組についての評価、及びそう評価する理由

- ・子どもたちが人権について考えるよい時間となった。

- ・授業中の発言、授業のふり返りの子どもたちの作文から評価した。

- ・保護者や地域住民からの反応

- ・学校公開日に実施したことにより、保護者や地域の方に「人権教室」を見ていただくことができた。参観した保護者からは、「日常忘れがちであったが、改めて人権について考えることができた。」「自分の何気ない一言や行動が、子どもの人権に関わっていることに気付いた。」「学校でこのようなことも教えていただけてありがたい。このような機会をこれからも行ってほしいと思った。」等の意見が寄せられた。

- ・現在、実施にあたって課題と感じていること

- ・人権教室や交流活動だけでなく、授業時間や休み時間等、日常の学校生活全てにおいて人権意識を育てる場にならなければならない。そのためにも教職員の人権意識を高めることが今後も必要だと感じている。